

2022 年度「感染管理認定看護師のためのキャリアディベロップメント講座」
講義概要

◎前期

第1日 2022年10月8日(土)

第1時限 (13:35~15:00)

『医療現場における滅菌保証の考え方』 講師：大阪大学医学部附属病院 高階雅紀

講義概要：高階先生からのメッセージ

医療施設の滅菌供給部門が再生処理する医療機器の無菌性は、本来、医療機器メーカーが供給する滅菌済み医療機器と同様の方法で保証されなければなりません。しかし、医療施設での滅菌保証の方法と医療機器メーカーの行う滅菌保証の方法は、ある一点において異なる部分があります。日本医療機器学会では、2021年10月に改訂第5版となる「医療現場における滅菌保証のガイドライン」を上梓しました。今回は、このガイドラインに沿って、医療現場における滅菌保証の考え方を解説いたします。

第2時限 (15:15~18:15)

『サーベイランス① (SSI の実践)』 講師：箕面市立病院 四宮聡

講義概要：四宮先生からのメッセージ

SSI サーベイランスは、継続する中で様々な業務改善が可能です。また、多発事例への対応は、ICNにとってチャンスでもあります。本講義では、基本の復習から分析、多発事例への対応を演習し、改善につなげるためのスキルアップを目指します。

第2日 2022年10月9日(日)

第1時限 (9:00~10:25)

『COVID-19 の最新情報』 講師：国立国際医療研究センター 大曲貴夫

講義概要：大曲先生からのメッセージ

COVID-19 に対する臨床的な知見はかなり揃い、治療も確立してきました。受け入れのための医療体制も疾患の特質に合わせて整備が進んでいます。いよいよポストコロナのために医療と社会のあり方をどう変えていくかを議論し実行していく時期に来ています。COVID-19 のこれまでを振り返りつつ、今後の対応について皆様と一緒に考えたいと思います。

※大曲先生には講義日直近の Covid-19 の状況に応じた講義をしていただきます。
(事務局)

第2時限 (10:40~12:05)

『アウトブレイク対応～COVID-19 から AMR まで～』

講師：国立感染症研究所 黒須一見

講義概要：黒須先生からのメッセージ

COVID-19 やインフルエンザなどの急性呼吸器感染症では、陽性者（感染者）が探知されてまもなく患者増加となり、アウトブレイクが起きても比較的すみやかに収束します。一方、薬剤耐性菌（AMR）では陽性者の探知後に十分な対策が実施されなかった場合、水面下で拡がり多数の患者が探知されます。また、一度感染拡大を起こすと収束まで長期間を要します。アウトブレイクを探知したとき、どのように対応するべきか検討する機会にしたいと思います。

第3時限 (12:55~14:20)

『ストレスマネジメント』

講師：大阪大学大学院 武用百子

講義概要：武用先生からのメッセージ

新興感染症は CBRNE 災害の一つとされています。そのため、災害時にどのような精神的諸問題を抱えるのかを知り、自分達のところにも目を向けてセルフケアをしていくことが求められます。この講義では、ストレスの基礎知識、災害時に起こりうる精神的諸問題、この度の COVID-19 による精神的諸問題について触れ、具体的にどのようなストレスマネジメントができるのかを学んで頂きます。

第4時限 (14:35~16:00)

『臨床微生物学』

講師：大阪大学医学部附属病院 山本剛

講義概要：山本先生からのメッセージ

今回は「臨床微生物学と感染管理の関係」というタイトルでお話しをしていきます。”微生物学”と名前は、感染管理を行う上で馴染みがなくてはならないのですが、対象となる微生物の種類が多い上に、同定結果と薬剤感受性結果を組み合わせながらの結果解釈、毒素の検出、感染症法の定義付けまで幅広く理解が求められる。非常に専門性が高く、できるのであれば避けて通りたいと思っている人も居ると思います。今回は、検体提出から結果報告までの作業工程の中身を紹介し、検出される微生物の臨床的意義付けについて分かり易く学んでいきます。

◎後期

第1日 2023年2月11日(土・祝)

第1時限 (13:35~15:00)

『感染症学』

講師：大阪公立大学大学院 掛屋弘

講義概要：掛屋先生からのメッセージ

多剤耐性菌、MERS、ジカウイルス、COVID-19、サル痘・・・最近10年間を振り返ってみても世界各地で新興感染症が興って、短期間に世界中に広がり、医療機関だけではなく行政や社会全体に新しい病原体への対応が迫られる時代となりました。一方、医療技術は発展し、COVID-19のパンデミックではインターネットによる情報伝達や診断技術、治療薬やワクチン開発など感染症診療を取り巻く環境の変化をリアルタイムで実感できました。本講義では、感染症学の基礎知識と感染症に関する最新の話題について解説します。

第2時限 (15:15~16:40)

『抗菌薬の適正使用』

講師：国際医療福祉大学 矢野晴美

講義概要：矢野先生からのメッセージ

現在、適正使用が必要な静脈注射薬の代表がカルバペネム系薬である。特に院内で、カルバペネム系薬の適応がない場合に、処方されないように、いかに対策を練るかがAST antimicrobial stewardship teamの大きな使命である。許可制を施行している施設は少数に限られている。特定抗菌薬の使用申請のみでは適正使用の推進は実質的には困難である。マンパワーやその他のリソースの課題は従来から認識されてきたが、地道な教育を浸透させることで、少しずつ、若手を中心に、緑膿菌作用薬の適正使用が推進されてきた。カルバペネム系薬の適正使用は病院でのAST活動の指標であり、今後、多職種連携により、カルバペネム系薬の適正使用が推進されるように更なる活動が期待される。

また世界保健機関 WHO 2018 のレポートでは、マクロライド系薬、第3世代セフェム系薬、ニューキノロン系薬などの経口薬の処方が、他国と比し、突出して多い国の一つとなっている。医学生、研修医、その他の医療者学生・研修生の教育面からも、適正使用を学修環境から学べる環境の実現も早急に望まれる。

第3時限 (16:55~18:20)

『地域の感染対策』

講師：自治医科大学 笹原鉄平

講義概要：笹原先生からのメッセージ

感染対策に地域連携は必須でありましたが、新型コロナウイルス感染症の流行によって、その必要性がより増していると皆さんお感じになっているのではないのでしょうか。療養型病院や高齢者施設といった、急性期病院とは異なるシチュエーションで感染対策支援に携わるようになった方も多いためと思います。いつもと違う状況で、どこまで「正しい」感染対策ができるか頭を悩ませていませんか？でも「正しい」感染対策とは、そもそも何なのでしょう。皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。

第2日 2023年2月12日(日)

第1時限 (9:00~12:00)

『サーベイランス②(疫学・統計学)』

講師：大阪大学大学院 内海桃絵

講義概要：内海先生からのメッセージ

医療関連感染サーベイランスを含めた疫学研究で最も重要なことは、研究計画です。研究計画すなわちデータ収集方法が十分に練られていないと、せっかく苦勞して集めたデータも使い物になりません。そんな悲しいことにならないために、データ収集、データ分析のピットフォールと次につなげるための対策をご紹介します。

※ 内海先生には昨年受講された方にも重複しない内容での講義をお願いしています。(事務局)

第2時限 (12:50~14:15)

『ワクチン』

講師：神奈川県衛生研究所 多屋馨子

講義概要：多屋先生からのメッセージ

新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）の流行に伴い、新しいモダリティのワクチンが複数開発され、ワクチンに関する関心がこれまで以上に高まっています。新型コロナワクチン以外にも多数のワクチンがあります。ワクチンは常に有効性と安全性の両輪で考える必要があります。「知ること」が大切です。規則があるから受けるのではなく、理解して受けるワクチンにするためには、接種する立場の医療関係者が十分な知識をもつことが重要です。

第3時限 (14:25~15:50)

『感染制御をめぐる内外の最新トピックス』

講師：山形大学医学部附属病院 森兼啓太

講義概要：森兼先生からのメッセージ

COVID-19の流行が続き、先が見えない感じではありますが、それ以外の感染対策に関する話題や課題もそれなりに発生しています。また、3年ぶりに海外の学会にも現地参加できる見込みです。その雰囲気や学会での最新トピックスも交えながら、この1~2年の感染制御に関する「いま」をお伝えします。